

## 総括

—— 切る力・つなぐ力としての良心 ——

冒険的生涯

良心とは？

倜儻不羈 (てきとうふぎ)

## 出会いの体験と良心

- ・ 新島はアメリカで conscience と出会い、それを「体験」した。
- ・ 新島は、抽象概念や狭い意味での道徳律として「良心」を求めたのではない。
- ・ 具体的な出会いの中で、良心の「語り」(narrative)と「実践」を体得していく。



## 良心の継承

- ・ 「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。」  
(旧約聖書「イザヤ書」2章4節)
- ・ 「**一国の良心**」から「**世界の良心**」へ

キリスト教

良心とは？

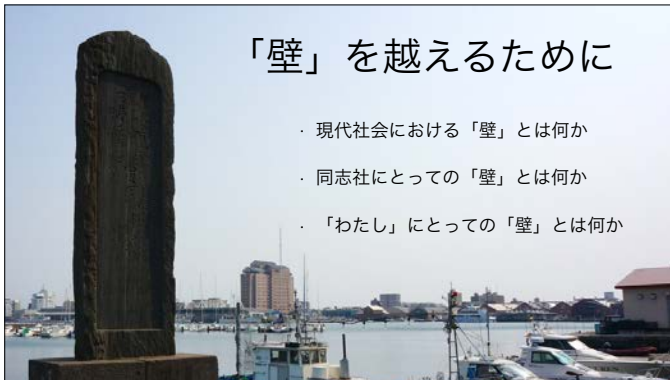
世俗社会 (啓蒙的価値)

## 現代における「良心」

- ・ 自分自身を深く振り返り、「個」の強度を高める「良心」  
(内に向かう良心、個人的良心)
- ・ 共同感覚としての「良心」 (外に向かう良心、社会的良心)
- ・ 国家主導の「道徳教育」と一線を画する「良心教育」  
(良心の越境的・対話的次元)
- ・ 地域・世代を超えた「共に知る」ことの実践 (良心の共同体)

## 良心の実践者となるために必要な力

- ・ 切る力 (disjunctive power) としての良心
  - ・ 「自治自立の人民」 (同志社大学設立の旨意)
  - ・ 「同志社は<sup>ていとう</sup>憚<sup>り</sup>不<sup>た</sup>羈<sup>り</sup>な学生を<sup>ていとう</sup>圧<sup>し</sup>ないで、できるだけ彼らの本性に従って個性を伸ばし、天下の人物を養成すること」 (遺言)
- ・ つなぐ力 (conjunctive power) としての良心
  - ・ 「人ひとりは大切である」 (同志社創立10周年、1885年)
  - ・ 地方教育論 (1882年)



## CONSCIENCE 「良心」を考え続けるために

同志社大学  
良心学研究センター

<http://ryoshin.doshisha.ac.jp>

- ・ 5月13日 (金) 「スポーツと良心——知・徳・体の調和を目指して」
- ・ 6月 1日 (水) 「21世紀の教育に求められているもの」
- ・ 6月14日 (火) 「難民問題——世界の良心に呼びかける」
- ・ 6月21日 (火) 「自然科学と新島襄」
- ・ 7月16日 (土) 「キリスト教主義大学における建学の精神  
——関西学院大学における取り組み」